

京都市上下水道事業中期経営プラン（2023-2027）

令和 5 年度 計 画

上下水道局では、平成30年3月に策定した「京（みやこ）の水ビジョン ーあすをつくるー（2018-2027）」に基づき、令和5年3月にビジョン後期5か年の実施計画である「中期経営プラン（2023-2027）」を策定しました。本計画はビジョン及びプランに掲げる事業を着実に推進するための単年度計画として策定するものです。

令和5年度は後期プランの初年度として、引き続き、安全・安心な水道水の供給及び水環境の保全を図るため、管路・施設の改築更新・耐震化や計画的な維持管理、防災・危機管理の取組を着実に推進します。

また、業務執行体制の見直し及び効率的な事業運営等の経営基盤強化の取組により、財源となる積立金（利益）の確保に努めてまいります。

目 次

1 令和5年度予算	P 2
2 事業推進計画（主な事業）	P 5
3 経営基盤強化計画	P 12
（参考）取組項目一覧	P 13



京都市上下水道局マスコットキャラクター
ホタルの澄都（すみと）くん



京都市上下水道局マスコットキャラクター
ひかりちゃん

ビジョン・プランを含む経営情報については、上下水道局ホームページを御覧ください。<https://www.city.kyoto.lg.jp/suido/page/0000292343.html>
事業の概要や背景・課題などについても詳しく記載しています！



1 令和5年度予算

① 水道料金・下水道使用料収入

新型コロナの影響は徐々に緩和していくと見込まれるものの、ビジョンで想定した収入を大幅に下回る見通しとなっています。

＜水道料金・下水道使用料収入の見通し＞※税込額での比較

区分	京（みやこ）の水ビジョン	令和5年度 予算	増減
水道	295 億 43 百万円	290 億 38 百万円	△5.1 億円
下水道	235 億 11 百万円	227 億 91 百万円	△7.2 億円

水道

【水道料金収入】

ビジョン比で△5.1 億円の減収

下水道

【下水道使用料収入】

ビジョン比で△7.2 億円の減収

② 建設改良等のための積立金(利益)

これまで以上の経費削減に努めるものの、減収や電気料金の高騰をはじめとする物価上昇の影響が大きく、積立金の確保額は前年度当初予算を下回る見通しとなっています。

＜プランに掲げた積立金（利益）目標の確保状況＞

区分	令和4年度 予算（当初）	令和5年度 予算	増減
水道	17.1 億円	14.0 億円	△3.1 億円
下水道	28.2 億円	19.6 億円	△8.6 億円

中期経営プラン(2023-2027) 5か年の財政目標

水道

配水管更新のため、積立金として
76 億円を確保

下水道

将来の大規模更新のため、積立金として
119 億円を確保

③ 企業債残高の削減

企業債残高については、水道事業・公共下水道事業合わせて 48 億円を削減します。

＜令和5年度末の企業債残高の見通し＞

区分	令和4年度 見込	令和5年度 予算	削減額(令和4-令和5)
水道	1,552 億円	1,551 億円	△1 億円
下水道	2,505 億円	2,458 億円	△47 億円
計	4,057 億円	4,009 億円	△48 億円

中期経営プラン(2023-2027) 5か年の財政目標

水道事業・公共下水道事業を合わせた企業債残高
4,057 億円(R4見込)→3,800 億円(R9)

④ 業務量及び建設改良事業の内容

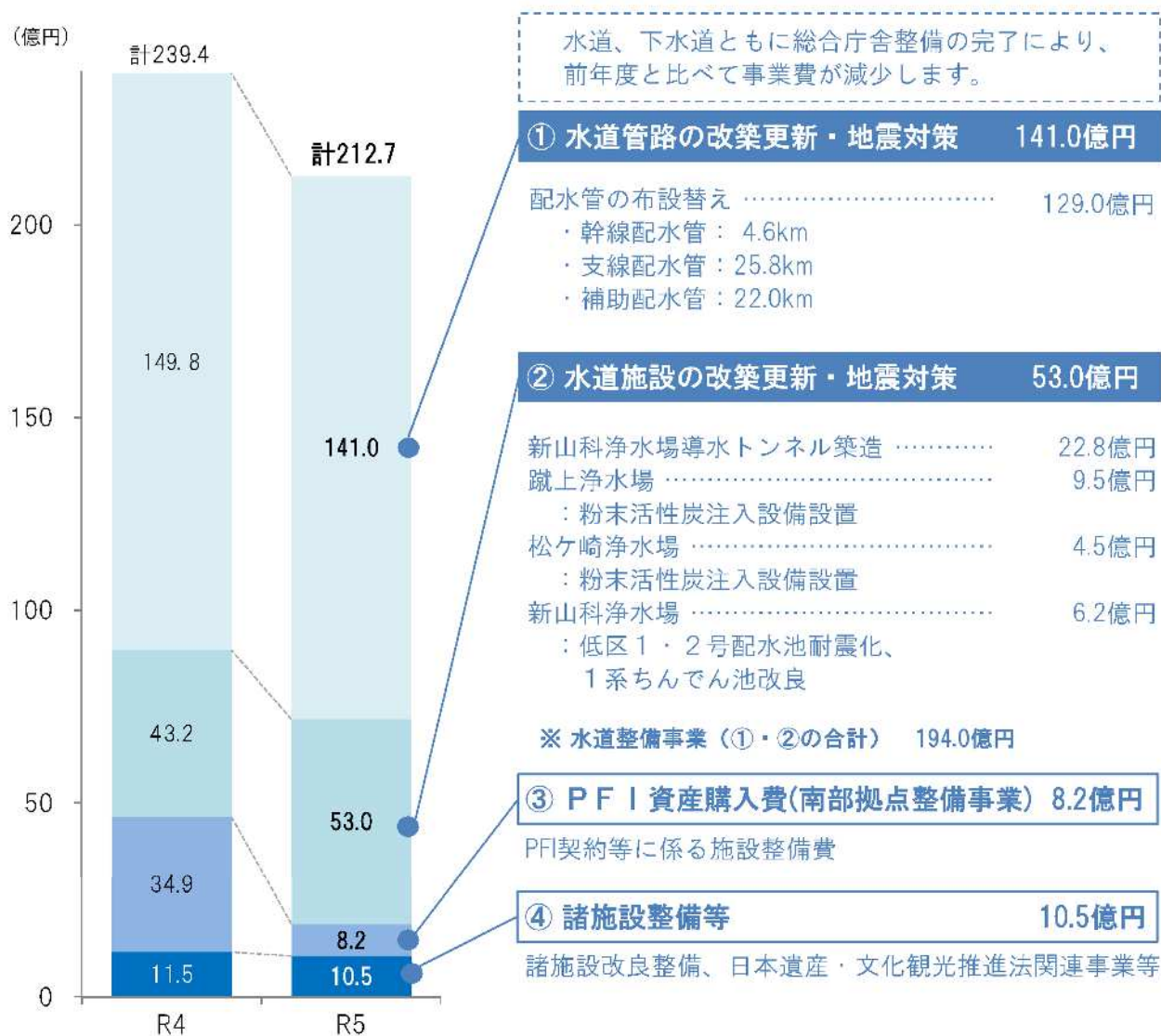
水道事業及び公共下水道事業の業務量と建設改良事業の予算規模及び内容は、次のとおりです。

水道事業特別会計

1 業務量

項目		令和4年度当初予算	令和5年度予算	増△減	
年間給水量	(千 m ³)	176,660	174,015	△2,645	△1.5%
1日最大給水量	(千 m ³)	515	495	△20	△3.9%
年間有収水量	(千 m ³)	161,153	159,695	△1,458	△0.9%
有収率	(%)	91.2	91.8	0.6	—
期末使用者数	(件)	795,200	802,500	7,300	0.9%

2 令和5年度建設改良事業（建設改良費：212.7億円（税込み））（内訳は主な事業）

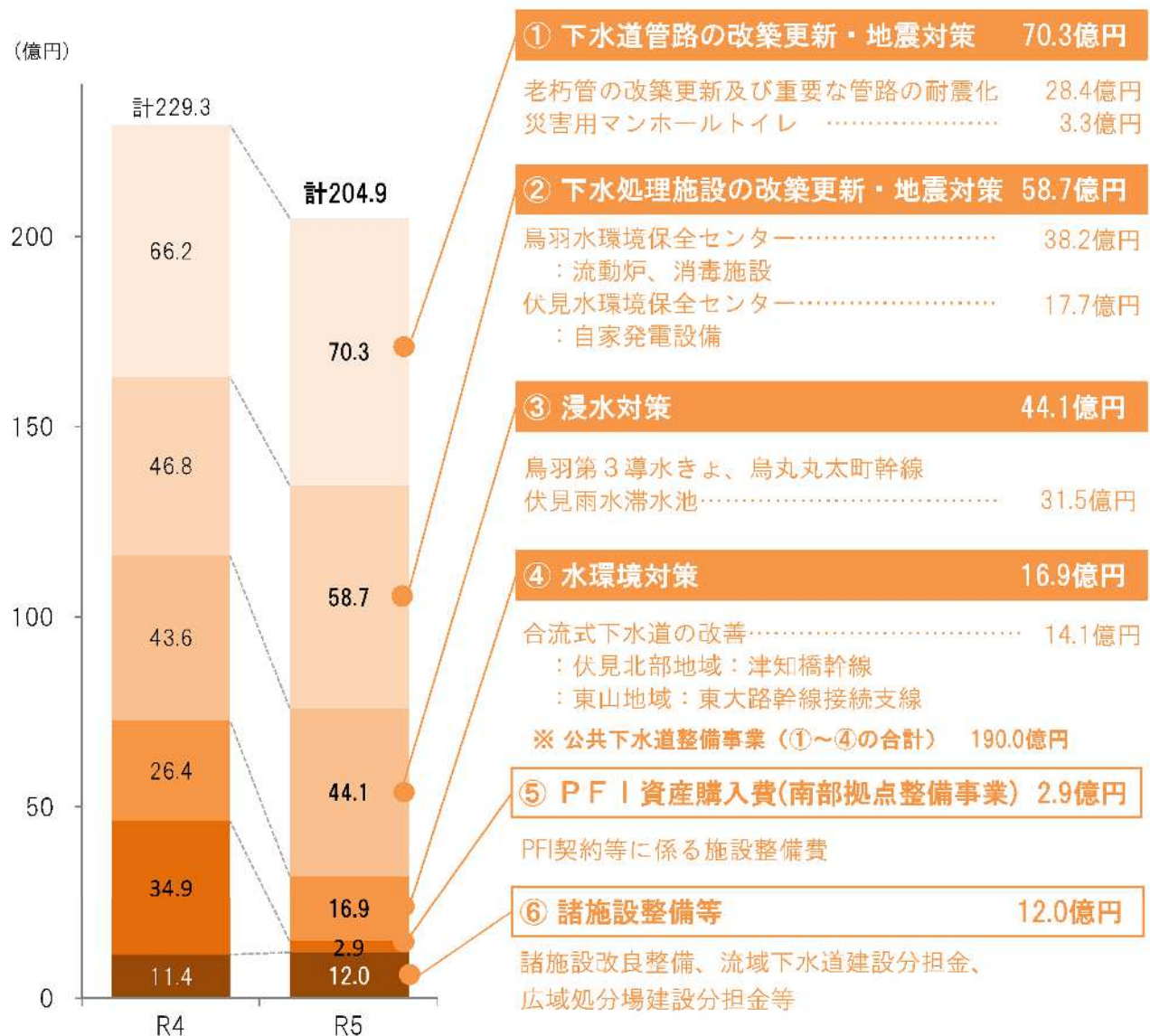


公共下水道事業特別会計

1 業務量

項目		令和4年度当初予算	令和5年度予算	増△減	
人口普及率	(%)	99.5	99.5	0	—
年間流入下水量	(千 m ³)	341,173	342,256	1,083	0.3%
年間有収汚水量	(千 m ³)	173,297	172,580	△717	△0.4%
期末使用者数	(件)	782,900	790,300	7,400	0.9%

2 令和5年度建設改良事業（建設改良費：204.9 億円（税込み））（内訳は主な事業）



2 事業推進計画(主な事業)

令和5年度に実施を予定している主要な事業について、ビジョン・プランに掲げる取組の構成に沿って御紹介します。

新型コロナの影響により、水道料金・下水道使用料収入が大幅に減少する中であっても、「レジリエント・シティ京都」の実現に向けた取組をはじめ、市民・事業者の皆さまにとって重要なライフラインである水道・下水道を守り続けるための取組について着実に推進します。

＜「京（みやこ）の水ビジョンーあすをつくる」の取組の構成＞

基本理念
京の水からあすをつくる

視点① 京の水をみらいへつなぐ

私たち上下水道局は、安全・安心な水道水をつくる、下水をきれいにして川へ返す、災害からまちとくらしを守るなど、水道・下水道の基本的な役割の責任をしっかりと果たしつつ、新しい技術の導入など、京の水を“みらいへつなぐ”ために、挑戦し続けます。

視点② 京の水でところをはぐくむ

私たち上下水道局は、市民の皆さまのニーズに対応したサービスを提供し、期待に応え続けることはもとより、京都ならではの「こころの創生」を重視し、文化や景観、そして地球環境に配慮した“ところをはぐくむ”事業運営に努めます。

視点③ 京の水をささえつづける

私たち上下水道局は、市民の皆さま、そして水道・下水道に携わる事業者の皆さまとともに、“京の水をささえつづける”ため、これまで培ってきた技術を実践に次世代へと継承しつつ、長期的な視点に立ち、安定した経営を行います。

方針① つくる

水源から蛇口までの水質管理を徹底し、安全・安心な水道水をつくります

方針② はこぶ

老朽化した管路の更新と耐震化を進め、水道水を安定してお届けし、下水を確実に集めます

方針③ きれいにする

下水をきれいにして川へ返し、市内河川や下流域の水環境を保全します

方針④ まもる

市民の皆さまとともに、地震や大雨などの災害から、まちとくらしを守ります

方針⑤ いどむ

新しい技術を取り入れながら、周辺地域や海外を含めた広い視野で、未来に向けた挑戦を続けます

方針① こたえる

分かりやすく伝え、しっかりと声を受け止め、市民の皆さまの期待に応え続けます

方針② ゆたかにする

琵琶湖疏水の魅力を高め、地球環境にやさしい事業運営により、まちやところをゆたかにします

方針① になう

これまで培ってきた技術をしっかりと継承し、京の水の担い手を育て、きずなを強めます

方針② ささえる

50年後、100年後を見据えた経営を行い、将来にわたって京の水を支え続けます



エスディージーズ

上下水道局はSDGsを推進しています



SDGs未来都市
京都

SDGsの理念や方向性等については、「京（みやこ）の水ビジョンーあすをつくる」及びその後期5か年の実施計画「中期経営プラン（2023-2027）」等と共通するものであり、上下水道局は、ビジョン及びプランの下、SDGsの達成に向けた取組を推進しています。

関連するSDGsの目標（ゴール）



※ 6～10 ページに掲載している事業費及び収入額（予算額）は、全て税込みの値です。



視点① 京の水をみらいへつなぐ

つくる

最適な浄水処理の推進（高機能な粉末活性炭注入設備の設置）【水道】10.9 億円



現在の粉末活性炭注入設備

老朽化した粉末活性炭注入設備の更新に併せ、注入できる粉末活性炭の最大量を増加させる等、臭気除去能力の向上を図ります。また、処理プロセスの最適化・高度化に向けた検討を行います。

令和5年度は、蹴上浄水場粉末活性炭注入設備設置工事を継続実施するとともに、松ヶ崎浄水場粉末活性炭注入設備設置工事に着手します。

つくる

水道施設の改築更新・地震対策

【水道】42.1 億円



新山科浄水場導水トンネル築造工事
（トンネル掘進の様子）

浄水場の基幹施設（配水池等）について、引き続き改築更新・地震対策を進めます。

令和5年度は、新山科浄水場導水トンネル築造工事を継続実施するとともに、新山科浄水場低区1・2号配水池耐震化工事、1系ちんでん池改良工事等に着手します。

はこぶ

水道管路の改築更新・地震対策

【水道】141.0 億円



配水管工事

老朽化した水道管路の更新を継続（約52km）し、更新時には、耐震性・耐久性に優れる管材料を使用することで耐震化を図ります。

また、給水のバックアップ機能を強化するため、隣接する給水区域間をつなぐ連絡幹線配水管の布設を引き続き実施します。

【中期経営プラン数値目標】老朽配水管の解消率(※)

47.0%

R4 見込



52.2%

R5 目標

(※) 老朽配水管（昭和34～52年に布設した耐震性に劣る初期ダクタイル鉄管）の平成21年度（更新事業開始年度）当初延長609kmに対する更新済の延長の割合



下水道管路の更生工事

更生工法（長寿命化）や布設替えにより、老朽化した下水道管路の計画的な更新と重要な下水道管路の耐震化を進めます。

令和5年度は、引き続き約33kmの下水道管路について、改築更新・地震対策を進めます。

【中期経営プラン数値目標】下水道管路改築・地震対策率(※)

28.1%

R4 見込



31.5%

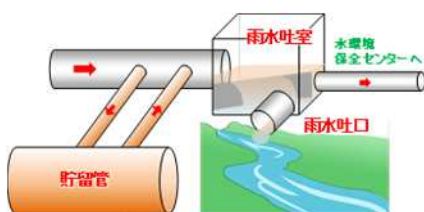
R5 目標

(※) 対策済管路延長÷破損等のリスクが高い旧規格の管路延長

鳥羽水環境保全センター消毒施設
(塩素混和池)

水環境保全センターの主要な施設について、引き続き改築更新を進めます。

令和5年度は、鳥羽水環境保全センター消毒施設改築更新工事、流動炉延命化工事及び伏見水環境保全センター自家発電設備工事等を継続します。



貯留管による対策イメージ

汚水と雨水を一本の管きよで合わせて流す合流式下水道は、雨が強く降ると、汚水の混じった雨水が河川に流出することがあるため、その流出量を減らし、河川の水環境を守る対策を引き続き実施します。

令和5年度は、津知橋幹線、東大路幹線接続支線の整備を完了し、合流式下水道改善率100%を達成する予定です。

【中期経営プラン数値目標】合流式下水道改善率

90.1%

R4 見込



100%

R5 目標



鳥羽第3導水きょ（発進立坑）

「雨に強いまちづくり」を推進し、大雨の時に雨水を取り込む雨水幹線等の整備を引き続き進めます。

令和5年度は、浸水に対する安全度を更に向上させるため、鳥羽第3導水きょや烏丸丸太町幹線等の整備を継続して実施します。

マンホールトイレ
（左上は設置時の様子）

災害時におけるトイレ機能を確保するため、避難所となる小中学校等へのマンホールトイレの整備を引き続き実施します。

また、仮設給水槽等の防災備品を拡充し、応急給水体制を充実させるなど、災害対応力の強化を図ります。



高画質カメラによる調査試行状況

下水道管の改築更新の推進を図るため、高画質カメラを活用した管内調査の効率化についての調査研究を継続して実施します。

また、事業費等の更なる平準化に向けた施設マネジメントの推進を図ります。

◆施設マネジメントについて

老朽化が進んでいく水道・下水道管路を対象に、限られた財源の中で最大の効果が得られるよう、令和4年度から、上下水道一体として、今後30年以上の長期の事業量・事業費の更なる平準化に向けた検討に着手しており、次期ビジョン以降を見据えた「施設マネジメント」の取組についても推進しています（具体的な取組については、視点③-方針②-取組①において実施します）。



視点② 京の水でここをはぐくむ

こたえる

戦略的な広報活動（事業への理解促進、水需要喚起）

【水道・下水道】19 百万円



いい風呂の日キャンペーン

厳しい財政状況のもと取り組む広報活動については、限られた予算の中で効果的・効率的な発信となるよう、リーフレットやインターネット（ホームページ、動画、SNS）、参加型イベント等を活用し、快適で衛生的な生活を支えるライフライン事業への理解促進や水需要の喚起を図ります。

ゆたかにする

琵琶湖疏水の魅力発信

（びわ湖疏水船、日本遺産・文化観光推進法関連事業）

【水道】2.0 億円

（うち 1.0 億円は国の補助金等）



びわ湖疏水船事業



琵琶湖疏水記念館テラス整備イメージ

びわ湖疏水船事業を引き続き支援し、びわ湖疏水船の琵琶湖への航路延伸実現に向けて、4 隻目となる新船建造等に取り組みます。

また、琵琶湖疏水記念館において、地下テラスのデッキテラス化など、蹴上・岡崎エリアにおける文化・観光拠点としての整備を推進し、賑わい空間の創出を図ります。

● 日本遺産について

地域の歴史的魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産」として認定し、有形・無形の様々な文化財群を総合的に活用する取組を支援する制度であり、令和2年6月、琵琶湖疏水が認定されました。

● 文化観光推進法について

文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律であり、文化観光を推進するため、「拠点計画」及び「地域計画」の認定等を定めています。令和2年11月、「琵琶湖疏水記念館を中核とする文化観光拠点計画」が拠点計画として認められました。

ゆたかにする

創エネルギー対策（大規模太陽光発電事業、下水汚泥固形燃料化）



太陽光発電設備（新山科浄水場）



鳥羽水環境保全センター固形燃料化施設

浄水場及び水環境保全センターに設置している大規模太陽光発電設備により、再生可能エネルギーの継続的な利用を図ります。

また、鳥羽水環境保全センター下水汚泥固形燃料化施設により、下水汚泥の有効利用を促進します。

なお、発電した電気等は、売却することで収入を確保します

収入

【水道・下水道】

1.5 億円



視点③ 京の水をささえつづける

になう

技術力の向上・技術継承の推進とチャレンジ精神あふれる職員の育成

【水道・下水道】30 百万円



若手職員を対象とした
専門技術研修の様子

中堅・若手職員を対象とした体系的な技術研修を計画的に実施するとともに、体験型研修施設やe-ラーニングを効果的に活用し、技術力の向上・技術継承を一層推進します。

また、災害対応力の強化やデジタル化の推進など、多様な事業課題に対応した実践的な研修の実施や若手職員が交流する機会の創出により、チャレンジ精神にあふれる職員を育成します。

ささえる

保有資産の有効活用



上下水道局総合庁舎
(6・7階の資産活用スペースを貸付)

財務体質の更なる強化に向けて、保有資産の有効活用を進めます。

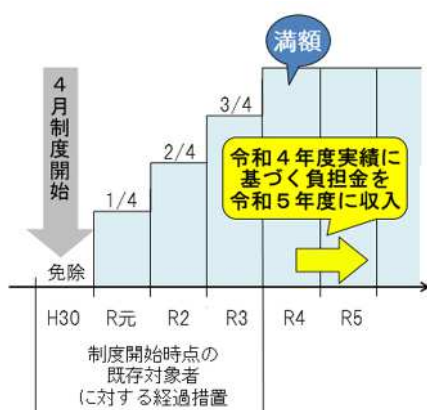
令和5年度は、引き続き、山ノ内浄水場跡地や総合庁舎内の資産活用スペース等の貸付を実施するとともに、新たに旧本庁舎跡地について、駐車場用地として貸付を開始します。

収入

【水道・下水道】
5.2 億円

ささえる

水道施設維持負担金制度の運用



水道水と地下水等を混合して利用するお客さまを対象とした水道施設維持負担金制度の着実な運用に努めます。

令和5年度からは、制度開始時点の既存対象者に適用していた経過措置が終了するため、満額の水道施設維持負担金を収入します。

収入

【水道】
1.7 億円



電気料金の高騰及び粉末活性炭経費の増加について

① 電気料金の高騰

上下水道事業は、電力を大量に使用する事業で、水道事業では浄水場や加圧施設において、下水道事業では水環境保全センターにおいて主に使用しています。これらの主要施設において、1年間に、水道事業では約3,500万kWh、下水道事業では約8,000万kWhの電力を使用しており、両事業を合わせると一般家庭およそ3万世帯の年間使用量に相当します。

原油等の燃料価格の高騰に伴い電気料金単価は大幅に上昇しており、令和5年度予算における電気料金は、水道事業で11.9億円（令和3年度比+6.5億円）、下水道事業で30.0億円（令和3年度比+18.1億円）を見込んでおり、上下水道事業の財政状況に大きな影響が生じています。

<主要施設の電気料金推移>

	令和3年度 決算	令和4年度		令和5年度		
		当初予算	見込	予算	対R3決算	対R4当初予算
水道	5.4億円	6.7億円	8.6億円	11.9億円	+6.5億円	+5.2億円
下水道	11.9億円	15.0億円	19.9億円	30.0億円	+18.1億円	+15.0億円

② 粉末活性炭経費の増加

水道水源である琵琶湖では、主にプランクトンの増殖により臭気物質が発生しており、上下水道局では浄水処理の強化や粉末活性炭による脱臭処理などに取り組んでいます。

近年、臭気物質の発生期間が長期化し、濃度が上昇することも増えていることから、粉末活性炭の注入量が増加し、また、調達単価も大幅に上昇しているため、令和5年度予算における経費は5.2億円（令和2年度比+3.4億円）を見込んでおり、水道事業の財政状況に大きな影響が生じています。

<粉末活性炭の注入状況>

	令和2年度 決算	令和3年度 決算	令和4年度		令和5年度		
			当初予算	見込	予算	対R2決算	対R4当初予算
注入量	716 t	1,230 t	754 t	1,503 t	1,503 t	+787 t	+749 t
1 t当たりの 調達単価	25 万円	24 万円	25 万円	29 万円	35 万円	+10 万円	+10 万円
経費	1.8 億円	2.9 億円	1.9 億円	4.3 億円	5.2 億円	+3.4 億円	+3.3 億円

※ 単価・経費には、粉末活性炭の注入に係る費用を含む。

3 経営基盤強化計画

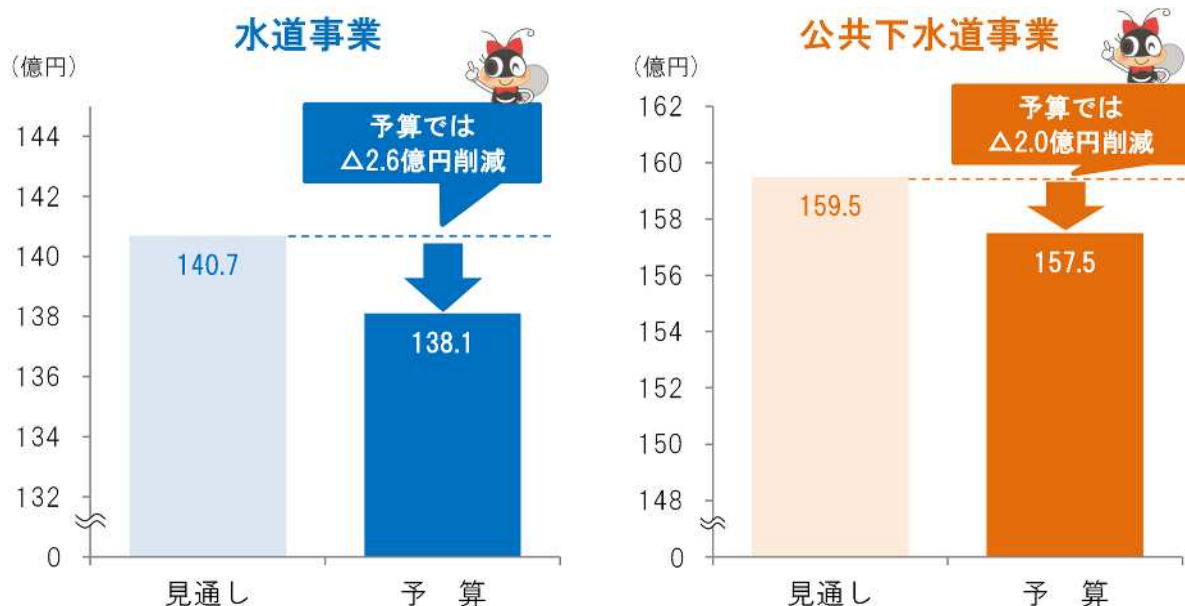
収入が減少し、電気料金をはじめとする物価が高騰する中であっても、老朽化した管路や施設の改築更新・地震対策、大雨からまちやくらしを守る浸水対策など、市民の安全・安心につながる取組を着実に進めるためには、事業の財源となる積立金（利益）をしっかりと確保する必要があります。

そのため、後期プランに掲げる「経営基盤強化計画」に基づき、業務の執行体制の見直しや効率的な事業運営に努めることで、ビジョン目標に向けた収支改善（支出の削減等）を図ります。

<令和5年度取組内容>

業務執行体制 の効率化 人件費の削減	民間活力の導入（水道管路管理センター窓口業務の委託化）、業務執行体制の見直し等による職員数の削減（△37人）
効率的な 事業運営 物件費の削減	- 水道配水管更新による漏水修繕経費の削減や下水汚泥から生成する消化ガスの利用による都市ガス購入経費の削減等の経費削減 ※ これらのほか、あらゆる業務について再点検と見直しを実施
その他	- 企業債の借入方式の見直し（長期債から短期債への変更）等による支払利息の削減 - 保有資産の有効活用による賃料収入の確保（水道：4.3億円、下水道：0.9億円） - 下水道事業における投資規模の抑制による減価償却費等の削減

<令和5年度予算における人件費・物件費の削減>



注 グラフ中の数値は人件費・物件費の合算値であり、「見通し」は経費削減に係る取組を実施する前の見通しの値を、「予算」は取組実施効果を考慮した予算値を示しています。

(参考)取組項目一覧

視点① 京の水をみらいへつなぐ

方針① つくる

取組	令和5年度の実施内容／目標等	所属
① 水源から蛇口までの水質管理の徹底		
水質検査の徹底	○ 令和5年度水道水質検査計画に基づく原水及び水道水の水質検査の実施 ○ 令和6年度水道水質検査計画の策定 ○ 水道G L Pに基づく精度の高い水質検査の実施	技術監理室水質第1課
水安全計画の継続的な運用	○ 水安全計画の運用、見直し	水道部管理課
② 原水水質の変化に対応した最適な浄水処理の推進		
最適な浄水処理の推進 6 ページ参照 最適な浄水処理の推進(高機能な粉末活性炭注入設備の設置)	○ 高機能な粉末活性炭の注入 ○ 蹴上浄水場における高機能な粉末活性炭注入設備設置工事実施 (R4 年度事業開始・R7 年度運用開始予定) ○ 松ヶ崎浄水場における高機能な粉末活性炭注入設備設置工事着手 (R5 年度事業開始・R8 年度運用開始予定) ○ 処理プロセスの最適化、高度化に向けた検討	技術監理室水質第1課 水道部管理課、施設課
施設の機能を維持するための適切な維持管理	○ 施設に関する基本情報や修理履歴等データベースの活用	水道部管理課
③ 安定的に水道水をつくるための基幹施設の改築更新・耐震化		
導水施設の更新・耐震化 6 ページ参照 水道施設の改築更新・地震対策	○ 新山科浄水場導水トンネル築造工事実施 (H29 年度事業開始・R10 年度運用開始予定)	水道部施設課
水道基幹施設の改築更新・耐震化 6 ページ参照 水道施設の改築更新・地震対策	○ 新山科浄水場1系浄水施設改良工事着手 (R5 年度事業開始・R7 年度工事完了予定) ○ 新山科浄水場低区1・2号配水池耐震化工事着手 (R5 年度事業開始・R7 年度工事完了予定)	水道部施設課

方針② はこぶ		
取組	令和５年度の実施内容／目標等	所属
① 配水管等の適切な維持管理の推進		
配水管洗浄や漏水調査の推進	○ 配水管の洗浄作業（「京（みやこ）の水道管おそうじプロジェクト」）の実施 ○ 漏水調査の実施	水道部水道管路課、水道管路管理センター
② 安定的に水道水を供給するための配水管の更新・耐震化		
<u>配水管の更新・耐震化の推進</u> 6 ページ参照 水道管路の改築更新・地震対策	○ 老朽化した配水管の更新・耐震化の実施 52km ・ 配水管更新・耐震化工事実施 30km ・ 補助配水管更新・耐震化工事実施 22km ・ 老朽配水管の解消率 52.2%（R5 年度末）	水道部水道管路課
<u>地震等災害時における給水のバックアップ機能強化</u> 6 ページ参照 水道管路の改築更新・地震対策	○ 低区御池連絡幹線配水管 布設工事実施（H26 年度事業開始・R7 年度工事完了予定） ○ 高区花園連絡幹線配水管 布設工事完了（H26 年度事業開始・R5 年度工事完了予定） ○ 低区五条連絡幹線配水管 布設工事完了（R4 年度事業開始・R5 年度工事完了予定）	水道部水道管路課
③ 安全・安心な水道水をお届けするための給水サービスの向上		
受水槽の適正な維持管理の啓発と直結式給水の P R	○ 貯水槽水道の設置者への啓発・助言 ・ 戸別訪問の実施 ・ 貯水槽の適正な管理の指導及び直結式給水への切替えに関する情報提供の実施 ○ 直結式給水の P R ・ 局ホームページへの直結式給水に関する情報の掲載 ・ 貯水槽水道設置者への戸別訪問の実施による直結式給水への切替えに関する情報提供及び P R 強化	水道部水道管路課
指定給水装置工事業業者への適切な指導	○ 新規事業者を対象とした説明会の実施 ○ 事業者を対象とした更新制度の実施	水道部水道管路課
④ 下水道管路の適切な維持管理の推進		
計画的な維持管理の推進	○ 下水道管路の計画的な巡視や点検調査 ○ 腐食のおそれ大きい箇所点検調査 2.3km	下水道部管理課
⑤ 優先度を踏まえた下水道管路の改築更新・耐震化		
<u>計画的な管路内調査及び改築更新・耐震化の推進</u> 7 ページ参照 下水道管路の改築更新・地震対策	○ 下水道管路の調査及び改築・地震対策の実施 33km	下水道部下水道建設事務所、計画課、設計課
⑥ 適切に下水道をお使いいただくための啓発や勧奨		
未水洗家屋の解消に向けた水洗化勧奨の推進	○ 全戸訪問による水洗化勧奨の実施	下水道部管理課
工場・事業場排水の監視及び指導	○ 工事・事業場への立入検査 年間 1,200 回以上	下水道部施設課

方針③ きれいにする		
取組	令和5年度の実施内容／目標等	所属
① 下水の高度処理や適切な水質管理による処理水質の維持・向上		
適切な維持管理の実施	○ 点検整備計画に基づく施設の定期整備の実施 ○ 基本情報や修繕履歴等のデータベースの運用・更新	下水道部施設課、計画課
良好な処理水質の維持・向上	○ 水質管理計画の見直し・継続運用 ○ 効果的・効率的な運転管理に関する調査・研究の実施 ・ 処理コスト削減と水質維持の両立	技術監理室水質第2課 下水道部施設課
② 水環境保全センター施設の再構築		
<u>水環境保全センター施設の改築更新・耐震化</u> 7 ページ参照 下水処理施設の改築更新・地震対策	○ 鳥羽水環境保全センター消毒施設運用開始 (R2 年度事業開始・R5 年度運用開始予定) ○ 鳥羽水環境保全センター汚泥焼却炉改築工事着手 (R5 年度事業開始・R9 年度運転開始予定)	下水道部下水道建設事務所、計画課、設計課
施設規模の適正化に向けた取組の推進	○ 鳥羽水環境保全センター吉祥院支所の貯留水を鳥羽水環境保全センターへ送水開始	下水道部下水道建設事務所、計画課、設計課
③ 健全な水環境を保全するための合流式下水道の改善		
<u>合流式下水道の改善対策</u> 7 ページ参照 水環境対策(合流式下水道の改善)	○ 合流式下水道改善対策施設の整備完了 ・ 東山地域分水施設の工事完了 ・ 津知橋幹線の工事完了 ○ 合流式下水道改善対策施設の継続運用	下水道部管理課、下水道建設事務所、施設課、計画課、設計課

方針④ まもる		
取組	令和5年度の実施内容／目標等	所属
① 「公助」としての災害に強い施設整備や危機管理体制の強化		
防災危機管理体制の強化	○ 各種計画、マニュアル及びBCPの運用、点検及び見直し ○ 災害を想定した実践的なマニュアル運用訓練及び研修の実施 ○ 大都市や京都府下の自治体、民間事業者との防災訓練、情報交換の実施 ○ ICTを活用した防災・危機管理情報の発信方法の検討	総務部総務課
<u>施設整備の強化</u> 8 ページ参照 防災・減災のための装備等の強化	○ 災害用マンホールトイレの継続的な整備 ・ 避難所となる小中学校等への整備の実施 ○ 仮設給水槽の増台 10基 ○ 防災拠点等への仮設給水槽の配備、運用	総務部総務課 下水道部下水道建設事務所、計画課、設計課
② 「自助」の意識啓発や「共助」の推進による災害対応力の強化		
「自助」の意識啓発による防災意識の向上と市民備蓄の推進	○ 災害用備蓄飲料水の積極的かつ効果的な啓発活動 ○ 自助に関する情報発信の充実及び強化	総務部総務課
「共助」の推進による災害対応力の強化	○ 各区役所・支所と連携した自主防災組織への防災研修の実施 ○ 各行政区、学区、地域等が主催する防災訓練への参加 ○ 共助に関する情報発信の充実及び強化	総務部総務課

③ 「雨に強いまちづくり」を実現するための浸水対策の推進		
鳥羽第3導水きょをはじめとした施設整備 8 ページ参照 浸水対策の推進	○ 鳥羽第3導水きょ工事实施 (R2年度事業開始・R9年度運用開始予定) ○ 烏丸丸太町幹線工事实施 (R2年度事業開始・R7年度運用開始予定) ○ 伏見水環境保全センター雨水滞水池工事实施 (R2年度事業開始・R6年度運用開始予定)	下水道部下水道建設事務所、計画課、設計課
浸水被害軽減に向けた細やかな対策	○ 雨水貯留施設及び雨水浸透ますの普及促進 ○ 関係局区が連携した雨に強いまちづくりの取組の推進 ・ 地区別や課題に応じた検討会の開催等	下水道部管理課、計画課

方針⑤ いどむ

取組	令和5年度の実施内容／目標等	所属
① 常に発展し続けるための新技術の調査・研究		
新技術に係る調査・研究の実施 8 ページ参照 未来の上下水道事業につながる調査・研究の実施	○ 新技術の調査・研究の実施 ・ 高画質カメラを活用した管内調査の効率化についての調査研究等	技術監理室監理課 下水道部計画課
外部機関との共同研究の実施	○ 局ホームページによる募集、共同研究の実施	技術監理室監理課
研究成果等の外部への発信	○ 各研究発表会（全国水道研究発表会、全国下水道研究発表会等）や論文掲載等での研究成果の発信	技術監理室監理課
② 広域化・広域連携におけるリーダーシップの発揮		
府内各事業体との広域連携の推進及び広域化の在り方に係る検討	○ 「京都水道グランドデザイン」等関連計画に基づく広域化の在り方の検討 ○ 広域連携の取組の推進 ・ 共同研修 ・ 水質検査の受託（異物試験） ・ 資機材の相互融通に向けた検討 ○ 大都市や京都府下の自治体、民間事業者との防災訓練、情報交換の実施【視点①-方針④-取組①再掲】 ○ 上弓削農業集落排水事業の京北特定環境保全公共下水道事業への統合に向けた産業観光局との連携	総務部総務課 経営戦略室 技術監理室水質第1課 下水道部管理課
流域関係者とのパートナーシップによる琵琶湖・淀川流域全体の水環境保全	○ 琵琶湖・淀川流域都市間の協議会等への参画 ・ 淀川水質汚濁防止連絡協議会や琵琶湖・淀川水質保全機構が実施する調査・研修・報告会への参加及び情報収集の実施 等	技術監理室水質第1課 水道部施設課 下水道部施設課、計画課
③ 国際協力事業の推進と国際貢献を通じた職員の育成		
国際協力事業の推進	○ JICA等を通じた海外からの研修・視察等の受入れ ○ 他都市との情報交換等の実施 ○ 職員の知識・技術力の向上（JICA能力強化研修等への受講機会の設定等）	経営戦略室

視点② 京の水でこころをはぐくむ

方針① こたえる

取組	令和5年度の実施内容／目標等	所属
① お客さま窓口機能の充実とマーケティング機能の強化		
お客さまの声に寄り添い、お客さま満足度を高める取組の推進	○ 大口利用者利用状況調査による新たなサービスに関するニーズの調査、地下水等利用専用水道利用者への訪問・ヒアリング ○ お客さま対応研修の実施・ご意見メール等への対応	総務部お客さまサービス推進室、総務課、企業力向上推進室
② お客さまの声を反映した新たなサービスの展開		
デジタル化の視点を踏まえた新たなお客さまサービスの展開	○ 請求及び支払のデジタル化によるペーパーレス推進 ○ 新たなサービス（スマホアプリなど）の導入検討・構築 ○ お客さま対応デジタル化の調査・研究 ○ 水道スマートメーターに関する調査・研究	総務部お客さまサービス推進室 水道部水道管路課
③ 京の上下水道を未来へ継承する広報・広聴活動の推進		
<u>戦略的な「伝える広報」の更なる推進</u> 9 ページ参照 戦略的な広報活動（事業への理解促進、水需要喚起）	○ 広報・広聴戦略に基づく、上下水道事業への理解促進につながるイベント等の実施、広報紙の各戸配布 ・ 水道週間や下水道の日等にちなんだイベントを軸とする広報活動の展開 ・ 上下水道施設見学会等の開催 ・ 子ども向けPRプログラム「わくわく すいどうひろば」の実施 ・ 知って安心 くらしと水道「京（みやこ）の水サロン」の実施 ・ 公共施設におけるミスト装置の稼働及びミストの貸出 ・ 水道メーター検針時にリーフレット（京の水だより mini）を配布 ○ お風呂入浴PR、給水スポット利用促進 ・ お風呂の効能や魅力を発信するイベント等の実施 ・ 給水スポット利用促進 ○ クロスメディア広報の展開 ・ SNSや印刷物等を組み合わせた情報の発信 ・ 新たなデジタル技術（クロスリアリティなど）の活用	総務部総務課
リアルタイムで行う双方向の広聴活動	○ オンラインを活用したモニター制度等の実施	総務部総務課

方針② ゆたかにする		
取組	令和5年度の実施内容／目標等	所属
① 琵琶湖疏水の魅力発信等による文化・景観や観光振興への貢献		
<u>琵琶湖疏水の魅力の更なる向上と情報発信</u> 9 ページ参照 琵琶湖疏水の魅力発信(琵琶湖疏水通航、日本遺産・文化観光推進法関連事業)	○ 疏水路の維持管理・整備 ・ 疏水路の維持管理・整備の実施（緑地維持管理、土砂浚渫、施設の点検整備等） ・ 石積整備工事の実施 ○ びわ湖疏水船航路延伸に向けた、4 隻目となる新船建造 ・ びわ湖疏水船新船（4 隻目）建造 ○ 疏水船スタッフの育成等の運営支援及び市民乗船会等 ・ 乗船ガイド及び操船者の人材育成 ・ 親子乗船会等の実施 ○ 琵琶湖疏水関連施設の魅力向上策及び整備推進等 ・ 琵琶湖疏水沿線曲がり角サイン等の整備 ・ 蹴上インクラインドラム工場の耐震等調査 ○ 琵琶湖疏水記念館における賑わい創出に向けた整備 ・ コーディネーター登用による琵琶湖疏水記念館の魅力向上 ・ 屋外スペースのイベント活用促進のための改修及び屋根・外壁の美装化	総務部総務課 水道部施設課
② 創エネルギー・省エネルギーによる脱炭素社会の実現への貢献		
温室効果ガス排出量削減のための取組の実施	○ 省エネ・高効率機器の採用、照明のLED化による使用電力の削減 ○ <u>太陽光発電等の創エネルギーの取組の継続的運用</u> 9 ページ参照 創エネルギー対策(大規模太陽光発電事業、下水汚泥固形燃料化) ○ 鳥羽水環境保全センター汚泥焼却炉改築工事着手（R5 年度事業開始・R9 年度運転開始予定） 【視点①-方針③-取組②再掲】	技術監理室監理課 水道部施設課 下水道部下水道建設事務所、計画課、設計課
環境マネジメントシステム（EMS）の運用による環境負荷の低減と情報発信	○ 環境マネジメントシステムの継続的運用 ○ 環境報告書の発行	技術監理室監理課
③ 地球環境にやさしい循環型まちづくりへの貢献		
下水汚泥の有効活用推進	○ <u>固形燃料及び消化ガスの有効活用</u> 9 ページ参照 創エネルギー対策(大規模太陽光発電事業、下水汚泥固形燃料化) ○ 焼却灰等の有効利用 ○ 鳥羽水環境保全センター汚泥焼却炉改築工事着手（R5 年度事業開始・R9 年度運転開始予定） 【視点①-方針③-取組②再掲】	下水道部下水道建設事務所、施設課、計画課、設計課

視点③ 京の水をささえつづける

方針① になう

取組	令和5年度の実施内容／目標等	所属
① 将来にわたり水道・下水道を支え続ける企業力の向上		
技術力の向上・技術継承の推進とチャレンジ精神あふれる職員の育成 10 ページ参照 技術力の向上・技術継承の推進とチャレンジ精神あふれる職員の育成	○ 中堅・若手職員に向けた体系的な技術研修の実施（年間延べ受講者数 500 人） ○ e-ラーニングの効果的な活用（技術研修受講者への確認テストの平均点 90 点） ○ 災害対応力やデジタル力向上に資する実践的な研修、資格取得支援制度の拡充 ○ 若手職員の活発な交流機会の創出 ○ コンプライアンス研修の実施	総務部企業力向上推進室
全ての職員が意欲・能力を発揮する活力ある組織風土の醸成	○ OJTを強化する取組や人事交流の推進 ○ 働き方改革の推進 ・ リモート勤務及びモバイルワークの実施等	総務部企業力向上推進室、職員課
② 京の水をともに支える市民・事業者の皆さまとの更なる連携		
市民・事業者の皆さまと一体となった事業推進	○ 水道・下水道のご利用等に係る情報発信 ・ 水道メーター検針時にリーフレット（京の水だより mini）を配布 ○ 市民・事業者による水道技術研修施設の活用 ○ オープンデータの取組の推進 ・ 掲載データの内容更新 ・ 掲載データ内容及びデータ形式の見直し ○ 公契約基本条例に基づく取組の推進 ・ 分離分割発注の推進など市内中小企業の受注等の機会の増大	総務部総務課、契約会計課 経営戦略室 水道部管理課
関係団体と一体となった事業の推進	○ 緊急対応業務等の上下水道サービス協会への委託（継続） ○ 上下水道サービス協会との災害時協定書の見直し	経営戦略室

方針② ささえる

取組	令和5年度の実施内容／目標等	所属
① 施設マネジメントの実践等によるライフサイクルコストの縮減		
施設マネジメントの実践 8 ページ参照 ◆施設マネジメントについて	○ 管路及び施設等に関する情報のデジタル化の推進 ○ 管路の事業量・事業費の更なる平準化に向けた調査・検討 ○ 優先順位を踏まえた建設事業計画の作成・実施 ○ 庁舎長期修繕計画に基づく修繕の実施	経営戦略室 技術監理室監理課 水道部管理課 下水道部計画課
継続的な工事検査手法の改善	○ 工事検査の手法改善の継続実施	技術監理室監理課

② 業務執行体制の見直しや民間活力の導入等による経営の効率化		
業務執行体制の効率化 及び活性化	○ 第 7 期効率化推進計画に基づく組織・業務の再編、職員定数の削減（△37 人） ○ 民間活力の導入の推進（給水装置関連業務等の委託化）	総務部職員課 水道部水道管路課
デジタル技術の活用による業務の効率化	○ デジタル技術を活用した業務の効率化 ・ RPA やノーコード／ローコードツールの活用 ○ 新技術の導入に向けた調査・研究 ○ 業務システム用サーバ仮想化の実施	総務部総務課、企業力向上推進室 技術監理室監理課
③ 将来にわたって事業を持続していくための財務体質の更なる強化		
長期的な財政目標達成に向けた財務体質の更なる強化	○ 資産維持費の活用等による企業債の発行抑制及びこれによる支払利息の削減 ・ （水道）建設改良積立金 14.0 億円（プラン目標値）の確保、企業債残高△1 億円の削減、支払利息△1.1 億円の削減（前年度予算比） ・ （下水道）建設改良積立金 19.6 億円（プラン目標値）の確保、企業債残高△47 億円の削減、支払利息△1.9 億円の削減（前年度予算比） ○ 下水道大規模更新等に備えた積立金の確保 ・ 建設改良積立金 19.6 億円（プラン目標値）の確保	経営戦略室
全会計連結の視点による事業運営	○ 一般会計からの繰入金（出資金）の休止 ・ 令和 5 年度休止額 19.4 億円	経営戦略室
<u>保有資産の有効活用をはじめとした増収策の検討・実施</u> 10 ページ参照 保有資産の有効活用	○ 保有資産の有効活用の検討及び売却・貸付の推進 ・ 未利用地等の測量、境界確定等 ○ 上下水道局旧本庁舎跡地の暫定活用 ・ 駐車場用地として活用 ○ 新たな収入源の検討	総務部総務課 経営戦略室
④ 継続的な経営改善の推進と適正な料金施策の検討		
継続的な経営改善と経営状況の情報発信の推進	○ 単年度事業計画の策定・実践及び進捗管理 ○ 経営審議委員会等の意見を踏まえた経営評価制度の充実及び実施 ○ 経営状況に係る情報発信 ・ 経営審議委員会の意見等を踏まえた経営評価冊子の作成及び公表 ・ 水道事業・公共下水道事業の一体的な予算・決算情報の公表	経営戦略室
適正な料金・使用料体系・水準の検討	○ <u>水道施設維持負担金制度の運用</u> 10 ページ参照 水道施設維持負担金制度の運用 ○ 将来を見据えた適正な水道料金・下水道使用料の在り方の検討	経営戦略室

＜中期経営プラン(2023-2027)に掲げる数値目標一覧＞

区分		指標名	R4 見込	R5 目標	プラン目標
プラン全体の目標		事業に対する総合満足度	75.7%	70%以上を維持	70%以上を維持
視点① 京の水をみらいへつなぐ	① つくる	異臭(かび臭)のない水達成率	98.4%	100%	100%
		導水施設の耐震化率 ※ ¹	26.8%	—	62%
		浄水施設の耐震化率 ※ ¹	75.5%	—	100%
		配水池の耐震化率※ ¹	53.8%	—	69%
	② はじめる	有収率	91.8%	91.8%	92.0%
		老朽配水管の解消率	47.0%	52.2%	74%
		主要管路の耐震適合性管の割合	58.4%	60.3%	66%
		下水道管路改築・地震対策率	28.1%	31.5%	44%
	③ きれいにする	高度処理管理目標水質達成率	100%	100%	100%
		処理施設の改築更新数	累計 37 施設 (H30-R4 年度)	10 施設	累計 31 施設 (R5-R9 年度)
		合流式下水道改善率	90.1%	100%	100%
	④ まもる	飲料水の備蓄率	61.9%	62.4%	65%
		雨水整備率(10 年確率降雨対応)	33.0%	33.1%	40%
	⑤ いどむ	新技術等の調査研究件数	累計 143 件 (H30-R4 年度)	年間 30 件	累計 150 件 (R5-R9 年度)
視点② 京の水でこころをはぐくむ	① こたえる	サービスの利用全般に対するお客さま満足度 ※ ²	72.7 %	70%以上を維持	70%以上を維持
		インターネットを活用したサービスの利用件数	年間 44,362 件	年間 40,000 件	累計 25 万件 (H30-R9 年度)
		広報活動の認知度 ※ ²	25.2%	30.0%	50%
	② ゆたかにする	琵琶湖疏水記念館来館者数	累計 292.8 万人	年間 15.6 万人	累計 370 万人
		事業活動に伴う温室効果ガスの排出量削減率(2013(平成 25)年度比) ※ ³	37.3%	32.7%	39%
		汚泥有効利用率	68.0%	70.0%	75%以上を維持
視点③ 京の水を大切にしよう	① になう	技術系資格保持者の割合	40.2%	42.0%	50%
	② ささげよう	下水道の大規模更新に備えた積立金の残高	40.9 億円 (H30-R4 年度)	60.5 億円	160 億円
		企業債残高	4,057 億円	4,009 億円	3,800 億円

※¹ 令和 5 年度の目標設定なし。

※² ビジョン目標「窓口・電話対応のお客さま満足度」、「広報活動の認知度」について施策・取組を踏まえて後期プランから見直しを行った。

※³ R4 見込は 2004 (H16) 年度比